

患者の死に向き合うこと

DNARを通して患者の死に向き合う

大学病院御緩和ケアを考える会

# 死に向き合う医療者の教育プログラム

心肺蘇生のある現場の状況を示し、  
DNARについての授業づくりを考えた

心肺蘇生の現場として  
山崎章郎氏の著書「病院で死ぬということ」  
より文章を抜粋して示す

# 心肺蘇生をする現場

70歳、男性、胃がんの末期

がん性腹膜炎を呈し腹水が貯留している

高カロリーー補液施行中

1週間前から経口摂取が出来なくなった

患者

「俺はもう駄目だ」と言って身辺整理を始めた

主治医には「変わりありません、大丈夫です」

病状は悪化し、その後 血圧は低下し、

呼吸も浅くなった

患者からは苦痛の訴えはなかった

「病院で死ぬということ」 山崎章郎 P33より抜粋

# 心肺蘇生まで

患者の容体悪化が著しくなり

主治医は、昇圧剤を追加し酸素投与を行った

主治医から家族へ

「今夜が正念場だから親戚などに連絡を取って

おくように」と伝えられた

その後、患者は下顎呼吸となった

主治医は

呼吸促進剤、強心剤を投与した

「病院で死ぬということ」 山崎章郎 P34より抜粋

# 心肺蘇生

## 患者の状態

心電図モニターに変化、その後心肺停止

心肺蘇生は医師2名、看護師2名により行われた

心マッサージ、気管挿管が行われた

家族は看護師の指示で部屋から出され廊下へ

挿管時に前歯が1本折れた、出血もあり

心肺蘇生は一時的には成功したが

15分後自発呼吸再開せず、心停止持続

「病院で死ぬということ」 山崎章郎 P36より抜粋

# 心肺蘇生後

心肺蘇生後15分

主治医の「もうやめよう」という言葉で蘇生術は終了

主治医から家族への説明

「いろいろ手を尽くして頑張ってみましたが」

「ご臨終です」

家族

「お世話になりました」

と言って、患者にとりすがり

患者の名前を呼びながら泣き出した

「病院で死ぬということ」 山崎章郎 P39より抜粋

# 心肺蘇生の場を見て

がんの末期で痛みもなく、状態がどんどん悪くなり心肺停止となった

患者に対する心肺蘇生について

患者の気持ち、家族の気持ち、医療者の考え方、それぞれの気持ち・立場を考えて

ディスカッションし、発表する

# 心肺蘇生

- 心マッサージ : 血液循環を維持
- 電氣的除細動 : 心臓に通電すること  
で正常な拍動に戻す処置
- 気管挿管 : 気管内チューブを挿入し  
換気を行う
- 昇圧剤の使用 : ショック状態の改善

# 心肺停止に対する医療者の義務

- 1 医療の場で蘇生は必要不可欠
- 2 がん末期では患者の意思確認が重要
  - 1) 確認できる時は行う
  - 2) 確認できない時、家族の意思を確認しておく・・・家族の意思で施行を決定
  - 2) 蘇生の実際と結果を充分説明する  
・・・DNARという医療行為を説明する
  - 3) 蘇生を希望しない時DNARを行う

# 心肺蘇生の意義

突然の心停止は心室細動によることが多い

AEDを加えた

気道確保＋人工呼吸＋心マッサージ



蘇生率が高まり、社会復帰できる

- \* 心停止で意識を失ったまま10分間放置すると社会復帰率は10%を切る

# 事例を見て

「こうして、その人生のごとく、静かで自然な死を迎えることが可能だった患者は、その最後の時に至り、嵐の中の小舟のように翻弄されて死に……」

痛みもなくがんの末期で命の灯が消えてゆく患者に蘇生という医療行為がなされたことに対し

「自分の死が確実となった時には“決して意味のない蘇生術はしないでください”と家族と医師に伝えておきましょう」

「病院で死ぬということ」 山崎章郎 P40, 42より抜粋

# DNAR

DNAR

Do Not Attempt Resuscitate

試みても有益ではないだろう

蘇生を行わない

- ・心マッサージをしない
- ・人工呼吸をしない
- ・昇圧剤ほかを使用しない

# DNRからDNARへ

現在はDNARとして示されている

・・・DNARとは蘇生を行わない行為で原則的には患者の意思の表明(確認)が必要

蘇生の成功率が低い(蘇生を行っても治癒しない、QOLが向上しない)癌末期や、治療効果が期待できない患者に対し救急医療の場で行われる医療

# がんの末期

## 患者が出来る事

起こりうることを理解し

自律と自己決定権の観点から前もって  
意思を示しておく

## 家族が出来る事

病状、病期の理解と患者に起こるであろう  
様々な事に対する心構えとその場の決断

# がん末期とDNAR

がん末期では

提供する治療の利益、負担を考える

・・・緩和なのか、苦痛を与えているのか

患者の人権・自己決定権、尊厳について考える

# DNARロールプレイ

終末期のすいがん患者(76歳、男性)について

DNARを承諾をとる

患者に対して

家族に対して

スタッフ間で共有する

DNARの実際を示す

医師役は学生

患者役は講師

# DNARをどう伝え、フォローするか

医師のモデルをしめす

看護師から見た医師の伝え方を示す

DNARを伝えた後

医師の働き、看護師のサポート、

多職種の関わりを示す